

自治推進委員会現地調査メモ

○大江校区第3町内・4町内・5町内の取り組みに関して（地域の防災：ハザードマップ作成状況）

〔住民の参加意識について〕

・異常気象、昨年7月の九州北部豪雨災害の被害を受けて、地域の皆さんの関心が高かった。参加の意識が高まっていた。

・参加人数が多く、女性が多く入っていてよかった。人口構成を考慮した、参加者の構成が重要だ。

⇒メンバーは、地域の役員、隣保班の班長、呼びかけてで来られた一般の方などが参加されていた。

・たくさんの分野の方が参加されると、それだけ地域の問題も見えてくるのではないかと実感した。

・3町内全戸に声をかけて、これだけしか集まらなかったといった思いも自治会長にはあるようだ。

・昔から住んでいる方と、新しく住んでこられた方の意識の差があるようだ。

新しい住民をどのように巻き込むかが課題

・行政からの提案、呼びかけに対して、役割として参加するのではなく、目的を共有し、危機感を持って主体的に参加しているところが良かった。あの地域では、参画・協働で取り組むことに、ハザードマップ作成ということが合っていたのだと感じた。

〔地域のまちづくりについて〕

・今回の取り組みでは、地域の指揮系統がはっきりと見えなかった。

⇒今回、会長さん方は、わざと引っ込んで、住民の方の意見が自由に出るようにしていたとのこと。上からの指揮系統でまちづくりをしていくには、普段からの隣近所のつきあいが重要。

ムラ組織が活着しているところでは、指揮系統でのまちづくりがうまくいくかもしれないが、そうでない地域もあつたりと熊本市内も様々なのだと感じる。

・今は、地域のヨコのつながりがない。これからは、地域のつながりだけではなく、別のつながりでこのようなことも考えていく必要があるのではないか。

〔行政の対応について〕

- ・説明資料が、行政側の立場にたったポイントだった。事前勉強会で住民の方の意見交換をしながら作った資料ならばよかった。
- ・行政で持っている防災マップや資料等をどこで見せるかが重要かと感じた。地勢など分かっている専門家を入れることもあってもよいのではないか。
⇒行政や学者が作成したマップはあるが、先に示して啓発することと、自分達が自分の身を守るという意味で発見して経験をつんでいくというやり方と目的が違うのかもしれない。このあたりの使いわけが重要。住民参加の効果として、住民自らが学んで経験を得るところにあるのかと感じた。

〔取り組みの広がりについて〕

- ・3町内のつながりはまだまだこれからのようだ。このような小さい単位の取り組みが校区全体に広がるようにするべきだと感じた。その後のフォローが必要だ。
- ・マップを作って終わりではだめ。一緒にマップに書き、一緒に見に行って、課題に対してどちらが解決すべきか考え、みんなでまちを守っていくということが大事。我が家に持ち帰り、家族で危険箇所について語り合うことも必要。
- ・中央区の職員や危機管理防災総室の方もサポートされ、このように協働して取り組めたことは、次の取り組みにつながるよい機会だと感じた。

〔防災について〕

- ・個人情報保護の問題。高齢者、障がい者など福祉を要する方の情報をつかむことが難しい。このことに関しても考える必要がある。
- ・災害でただ避難することだけではなく、避難する建物に耐震が備わっているかなど総合的に考えなければならない。災害弱者についても考慮しなければならない。水害の被害にあった地域だけではなく、他の地域も率先して検討していかなければならない。また、そのことをもって行政は啓発する必要がある。

○松尾北校区健康まちづくり部会との意見交換会（地域の健康まちづくり）
小嶋副会長より松尾北校区の取り組みについて報告

・総会など地域の方々が集まることについて。

⇒町内総会は、大きな課題が出た時には必ず開催している。年2、3回は開催している。7割くらいの世帯は出ていただいている。この健康づくりの件についても、昨年6月の総会で話したところ、大変関心が高かった。

また、健康まちづくりにおいては、今度の特定検診について全世帯に回覧するなど、行政と地域と2重にPRをしている。

・松尾北校区の生産年齢の方々は、市内中心部に出られている方が多いか。

⇒65世帯のうち、ほとんどが農家。平成17年の国勢調査では、第一次産業が5割だった。若い人は、市内に出ている人が多い。

・健康まちづくりのアンケートで出た松尾北校区ならではの課題はあったか。

⇒まずは、高齢化問題、それから足腰の痛みなど。

・個人情報壁を乗り越えるために、校区の目指す姿をはっきり打ち出されてやられている。地域を残すために、伝統文化の継承や健康づくりについてなどどのようにお考えか。

⇒松尾北校区は65世帯なので、協力しないと何も出来ないと皆考えているのではない。「互いの健康を思いやり、心も体も元気にみんな仲良く暮らせるまち」というスローガンを掲げているように、皆が周りを心配する。

伝統文化については、500年前からある肥後神楽、平山神楽の後継者作りに取り組んでいる。

・アンケートは行政と協働で作られたのか。

⇒アンケートの作成は区役所の職員にお任せした。内容については部会の役員と区役所で打ち合わせて作っている。

何事も役所任せ、自分達だけでしようということではなく、協働の気持ちですすめてきている。

・松尾北校区は、一世帯にひとつの役割があって、理想的に感じた。このような成功している地域の事例を報告すると、もっと人付き合いの必要性が高まるのではないか。

・松尾北校区のような皆が参加できる会議が理想的だと感じた。

・行政は、熊本市全体を松尾北校区のような取り組みにしたいと考えているのか。また、松尾北校区の人口を維持するのか減らすのか。

⇒平成20年、21年度、河内校区で生活習慣病改善を目指したモデル事業を実施し、平成22年、23年度は各保健福祉センターで1校区ずつモデルとして行い、健康づくりはもとよりまちづくりに繋げていった。これを礎に、全校区に広げていこうと始まったもの。西区には16校区あるが、10校区ですすめているところ。地域の特性に合わせた活動をしており、地域のやり方ですすめている。

人口については、私どもの目標は健康事業を伸ばすことにあるので、いつまでも住み慣れた地域で元気に過ごすということを最終的に目指している。(西区保健子ども課回答)

・食事のことが欠けているから、食に関してアドバイスということだろうか。

⇒一回目のアンケートで出た課題、食事・運動についてすすめている。地域の皆さんと話し合っ、食事についてももう少し詳細のアンケートをしようということになり、食生活のことについて取り上げた。(西区保健子ども課回答)

・地域の不便さについてはいかがか。

市内中心部は、ごみ問題や交通問題など課題が多い。小さい地域、少し不便なくらいがちょうどいいということもあるのだろうか。

⇒地域の課題、ハザードマップ作成や公共交通機関については、区全体で考えているところ。健康まちづくりについても、まちづくりということで一緒に考えていきたい。(西区保健子ども課回答)

小さい地域なので、町内会費は月1,500円。それでも足りなくてボランティアで賄っている。これほど高額な地域はないと思う。

ゴミ問題については、松尾北校区でも不法に置いていく人もいる。通学や通院も大変。

少ない人数なので、一世帯に一役だけでなく何役もしている状態。子どもの友達も少ない。今度行うアンケートについても、個人情報について詳しく記入する必要があり、否定的な人もいた。小さい地域だから全てがよいわけではなく、問題もある。

・市内中心部では、地域の役職について、仕方なく引き受けるということすら難しくなってきている。松尾北校区では、それを乗り越えているように、そのあたりの取り組みや関係性などを意識していきたい。